

## 本文の展開

- 【第1段落】 問題提起：赤ん坊は我々が発している言葉を理解しているのか？  
↳ 筆者が息子のスティーブンを使って実験
- 【第2段落】 実験の結果：スティーブンは「ボール」(ball) と「クマのぬいぐるみ」(teddy) という単語の意味はわかっていた
- 【第3段落】 言語研究者が大人と子供のやり取りをビデオ撮影する目的は？  
↳ ただ子供と一緒にいるだけでは気づかない、微妙なサインを読み取るため
- 【第4段落】 スティーブンが1歳のころ知っていたと思われる単語の数：約12語(句)
- 【第5段落】 active vocabulary (能動語彙) と passive vocabulary (受動語彙)  
・ 能動語彙 = 自分自身で能動的に使用できる語彙  
・ 受動語彙 = 理解はできるが、自分自身では実際には使えない語彙  
満1歳のころのスティーブンは、それぞれの語彙をどれくらい持っていたか？
- 【第6段落】 スティーブンが発した最初の言葉  
両親は“mummy”か“daddy”かと期待していたが、実際は“all gone”

## 解答

- 問1 from the way they react
- 問2 (A) bus (B) 2つの単語の意味を理解していた (15字)
- 問3 ウ 問4 イ
- 問5 周囲の人が使っているのを聞けば理解できるが自分では実際に使うことができない語彙 (39字)
- 問6 (D) 問7 エ

## 設問解説

- 問1 **TIP** 〈the way + S + V〉は「SがVする仕方」  
解説 the wayのあとに〈S + V〉が直接続くと「SがVする仕方」「SがVするあり方」などの意味を表す。(例) I don't like the way she talks. 「私は彼女の話し方が好きではない。」
- 問2 **TIP** 提示→具体的説明の展開をつかむ  
解説 分詞構文の using my son ... から第2段落最後の文までが a little

experiment「ちょっとした実験」の具体的内容。第2段落最後の the other two words とは、スティーブンが反応を示さなかった bus 以外の ball と teddy の2語を指す。

問3 **TIP** 多義語の意味は前後の文脈から判断せよ

選択肢の訳 ア. 英語は彼女が好きな科目の1つだ。 イ. 先生は私たちにその長く難しい文の主語と動詞を教えてくれた。 ウ. テストを受けるために5人の被験者〔対象者〕が実験室に集められた。 エ. 彼女はフランス生まれで、結婚して英国国民になった。

解説 subjectのあとの of an experiment「実験の」との結びつきから判断する。

問4 **TIP** 本文中に書かれていない内容を厳しく選り分ける

選択肢の訳 ア. そうすることにより、彼らは子供の行動を最も自然に観察することができる。

イ. 撮影した映像を繰り返し見ることにより、大人が言うことを理解しているときに赤ん坊がとるかすかな動きを見つけることができる。

ウ. 彼らがふれあう赤ん坊の顔を覚えるには、写真よりもビデオのほうが役に立つ。

エ. 映像は子供の言葉を研究するほかの科学者と共有しやすい。

解説 下線部(4)は「彼ら(=子供の言葉を研究する人々)は大人と赤ん坊が相互にふれあっているところをビデオに録る」という意味。研究者がこのようなことをする理由として、本文に書かれているものを選ぶ。

いくつもの英文選択肢から正解を選ぶ場合、選択肢だけ読んでいては、もっともらしい内容に惑わされやすい。本文の内容と厳しく比較して、明らかに誤りと判定できるものを消去法で除外していく方法が最も効率的である。ア、ウ、エについて、本文に出てくる語句、またはその言い換え表現を使っているが、どれも本文中に書かれていない内容を述べている。イについて、下線部(4)以降の第3段落の内容と一致。over and over を repeatedly と言い換えている。

問5 **TIP** 反意語に注意しながら、対比されている2つのものをつかむ

解説 下線部のあとの説明から、vocabularyの種類を表す形容詞として、active「能動的な、積極的な」とpassive「受動的な、消極的な」という反意語に着目する。筆者は第5段落第3文以降で、stage「段階」という語を使いながら、passive vocabulary「受動語彙」(理解語彙)とactive vocabulary「能動語彙」(表現語彙)の違いを述べている。

問6 **TIP** 数字が含まれている文を探せ

解説 補う文は How many words ~? で「12か月 (=満1歳)になるまで

にスティーブンが何語くらい単語を知っていたか」を尋ねているので、a dozen「1ダース」つまり「12」を含む文があとに続く(D)の位置が適切。

問7 **TIP** 本文の語句を使った選択肢に惑わされないように注意

**選択肢の訳** ア. この文章の筆者は、彼自身の息子を含む数人の赤ん坊を使って、ちょっとした実験を行った。

イ. 筆書の息子であるスティーブンは、生後6か月でおよそ12の単語を知っていた。

ウ. 赤ん坊は生後6か月のとき、両親が言うことのおよそ6分の1を理解する。

エ. スティーブンの両親は、彼が最初に能動的に使う単語は“mummy”か“daddy”のどちらかであろうと予想していた。

オ. 聞いたり読んだりする単語を理解はするが、自分で使うことはできない場合、その人は能動的な語彙を持っていると言われる。

**解説** ア. 3～5行目参照。選択肢後半の using 以下が誤り。実験の被験者は筆者の息子のスティーブンだけなので、正しくは using his own son Steven。

イ. 3～5, 26行目参照。選択肢最後の時間表現 six months after he was born「生後6か月」が誤り。knew about a dozen words「約12の単語を知っていた」というのは、筆者が実験を行ったときで、スティーブンは生後12か月のときの状況である。

ウ. one-sixth「6分の1」という分数に惑わされないこと。本文中にこのような表現は出てこない。

エ. 42～45行目参照。スティーブンの実際に初めて口にした語は all gone(全部なくなった)であったが、彼の両親、つまり筆者自身とその妻は mummyかdaddyと予想していたことがわかる。この予想と一致するので、この選択肢が正しい。either A or B「AかBのどちらか」

オ. 37～40行目参照。選択肢で説明しているのは、active vocabulary(能動語彙)ではなく passive vocabulary(受動語彙)。

## 英文理解のために

### 【第1段落】

#### 【文構造】

ll. 2-3 But sometimes we can see, from the way they react,

S V 挿入句

that they do know what a word is referring to.

S' 強調 V' O' (関係代名詞 what が導く名詞節)

O = that が導く名詞節

「しかし、時には私たちには、彼ら(=赤ん坊)の反応の仕方から、ある語が指しているものを実は理解しているとわかる場合がある。」

**解説** 文全体の骨組みは〈S + V + O (that 節)〉で、seeの目的語となる that 節の中に、さらに小さな〈S' + V' + O'〉が含まれている。knowの目的語は関係代名詞 what が作る名詞節。関係代名詞の what はそれ自体が先行詞を含んでおり、ここでは referring to の目的語の役割を果たしている。

from the way they react は挿入句。なお、〈the way + S + V〉については、問1の解説を参照。

#### 【語句・表現】

react: (動) 反応する > reaction:

(名) 反応

do (know): (動) あとに続く動詞を強調する do

refer: (動) 言及する, 触れる > reference: (名) 言及

refer to ~: (語句・記号などが) ~を表す

experiment: (名) 実験

do an experiment: 実験を行う

surround: (動) ~を取り囲む

include: (動) ~を含む(⇔exclude: ~を除く)

teddy bear: クマのぬいぐるみ

straight: (副) まっすぐに

stretch: (動) 伸ばす

stretched out his hands for ~: ~を求めて彼の両手を伸ばした

for a while: しばらくの間

attention: (名) 注意

### 【第2段落】

#### 【文構造】

ll. 16-17 But he gave definite signs that he understood the other two words.

S V O ↑ 同格「~という…」

\* that 節は直前の名詞の具体的説明

「しかし、彼はほかの2つの単語を理解しているという明確なサインを出していた。」

**解説** that は同格 (～という…) の意味を表す接続詞。that 節は直前の名詞句 definite signs の内容を具体的に説明している。同格の that 節を伴うのは、主に抽象的な概念を表す名詞で、sign 「しるし、兆候」のほかに、idea 「考え」、belief 「信念」、evidence 「証拠」、rumor 「うわさ」などがある。

同格を表す that を関係代名詞の that と混同しやすいので、注意が必要である。that のあとに続くのが完全な文か不完全な文かで判定できる。

《比較》

I know the fact **that** he is trying to conceal the scandal.

↑ 同格 \* that のあとに完全な文が来ている。

I know the fact [**that** he is trying to conceal           ].

↑ 先行詞 目的格関係代名詞 \* conceal のあとに目的語がない不完全な文。

【語句・表現】

might have known ～：もしかすると～を知っていたのかもしれない (\* 過去の行為に対する現在の視点からの推測を表す。)

bother *doing*：わざわざ～する

*be fed up with doing*：～するのにうんざりしている

subject：☑ (実験の) 被験者

definite：☑ 明確な (⇔ indefinite：不明確な)

【第3段落】

【文構造】

ℓ. 18-19 People **who study children's language** spend a lot of time **watching** **how babies react to the speech (that) they hear around them.**

S(先行詞) V O

疑問詞 S' V' 先行詞 S'' V''

O' (watching の目的語 = how 節)

「子供の言葉を研究する人々は、多くの時間をかけて赤ん坊が自分の周囲で聞こえる話にどのように反応するかを観察する。」

**解説** People ... spend a lot of time watching ～. 「人々は～を観察して多くの時間を過ごす」が文全体の骨組み。who ... language は主語の People を先行詞とする関係代名詞節。さらに watching の目的語として、ここでは間接疑問の how 節が置かれており、文末の they hear around them は直前の the speech を直接修飾している (接触節)。先行詞 the speech のあとに関係代名詞 that を補って考える。

ℓ. 24 You'd never notice them **if you were just sitting with the child,**

(S + 助動詞の過去形 + 動詞の原形)

S' 過去進行形

if 以下の仮定に基づく予想

現在の事実と反する仮定

「もし子供と一緒にただ座っているだけなら、それらには決して気づかないでしょう」

**解説** 主節が You'd (= You would) never notice them で、if 節の中の動詞が過去形の were であることから、仮定法過去の文とわかる。ここでは、第3段落第2文で「大人と赤ん坊がふれあっているところをビデオに録り、注意深くビデオを調べる」と述べている実際の事情とは逆の仮定を述べている。

【語句・表現】

interact：☑ 互いに影響し合う

subtle：☑ 微妙な

slight：☑ わずかな

over and over：何度も繰り返して

spot：☑ 見つける

【第4段落】

【文構造】

ℓ. 26(問6) How many words did Steven know **by the time** he was 12 months?

O S V (by the time S' + V' ~)

「生後12か月までにスティーブンは何語くらいの単語を知っていたのだろうか。」

**解説** <by the time + S + V> で「SがVするときまでに」という意味。time のあとに関係副詞の when を補って考える。by 「～までに」(期限) と till 「～まで(ずっと)」(継続) の使い分けにも注意しよう。

《比較》 I'll be here **by** five. 「私は5時までにここに来ています。」

I'll be here **till** five. 「私は5時まで(ずっと)ここにいます。」

ℓ. 28-29 He could also link some words with the activities

S 副詞 + V O 先行詞

(that) they related to           .

省略 S' V'

「彼はまた、いくつかの単語をそれらが関連する活動と結び付けることもできた。」

**解説** 先行詞の the activities に they (= some words) related to が直接説明を加える形 (接触節)。前置詞 to の目的語の働きをする関係代名詞 that が activities と they の間に省略されている。relate to ～ 「～と関連がある」

ℓ. 31-32 Some of these words he seemed to recognize very early on,  
 O S V 時間を表す副詞句

from around six months of age.  
 具体的な時期を補足

「これらの単語のいくつかを、彼は生後6か月頃という非常に早い時期に理解しているように思われた。」

**解説** some of these words を強調するために、〈S + V + O〉のOを文頭に出した、〈O + S + V〉の倒置文。ふつうの語順で書けば、He seemed to recognize some of these words very early on ... となる。seem to do は「～するように思われる」という話者の主観的な考察を表す。

**語句・表現**

dozen: ④ 1ダース, 12個

A as well as B: BばかりでなくAもまた (= not only B but also A)

link A with B: AとBを結ぶ [関連づける]

knock over ~: ~を倒す  
 a pile of ~: ~の山

brick: ④ ブロック, 積み木

be likely to do: ~しそう [しがち]である

gone: ④ (人が) なくなる, (物が) なくなる

recognize: ④ ~を認識する, 認める

**【第5段落】**

**文構造**

ℓ. 35-36 The first stage was to understand some of the words  
 S V C (to do) 先行詞

(that) he heard being used around him.  
 省略 S' V' C' (現在分詞)

「第1段階は、周囲で使われているのを耳にする単語のいくつかを理解することであった。」

**解説** 文全体は〈S + V + C〉の構造。先行詞の the words に he heard 以下が直接説明を加える接触節。the words と he の間に目的格の関係代名詞が省略されていると考える。〈hear + O + being + 過去分詞〉は「Oが～されているのを聞く」という知覚動詞構文。

**語句・表現**

vocabulary: ④ 語彙

notice: ④ ~に気づく, 注目する

stage: ④ 段階

for oneself: 独力で

active: ④ 能動的な, 積極的な  
 (⇔ passive: 受動的な, 消極的な)

**【第6～7段落】**

**文脈**

ℓ. 44-46 Was it going to be “mummy” or “daddy”?  
 = his first word

It was neither. It was “all gone.”

「それはその (= mummy または daddy の) どちらでもなかった。それは all gone だった。」

**解説** この neither は代名詞で、「(2つのものについて) どちらも～ない」という否定の意味を表す。ここでは前段落の最後に出てきた “mummy” or “daddy” の2つの単語のこと。なお、3つ以上のものについて「～のどれでもない」という場合は、neither ではなく none を用いる。

《比較》 Neither of the two students was able to answer the question.

「その2人の学生のどちらもその質問に答えられなかった。」

None of the students was able to answer the question.

「学生のだれもその質問に答えられなかった。」

**語句・表現**

be about to ~: まさに～しようとしている (= be just going to ~)

a week or so: 1週間かそれくらい

produce: ④ 生み出す, 発する

delighted: ④ うれしい

breathlessly: ④ かたずをのんで

neither: ④ (2つのものについて) どちらも～ない

It was neither.: それはその (ママ, パパの) どちらもなかった。

**全文訳**

赤ん坊はわれわれ大人が話していることがわかるのだろうか。多くの場合、この質問は答えるのが難しい。しかし、時には彼らの反応の仕方から、赤ん坊はある語が指しているものを実は理解しているとわかる場合がある。私はこのことを説明するために、約1歳だった息子のスティーブンをを使ってちょっとした実験を行ったことがある。私はおもちゃのバスやボール、クマのぬいぐるみなどのおもちゃで囲まれた状態で、彼を床に座らせた。彼はそれらに何の特別な注意も払っていなかった。しかし、私が「お前のボールはどこにある？」と尋ねると、彼はすぐにボールを見て、それを取ろうと両手を伸ばした。彼がしばらくの間それで遊んだあと、今度は「お前のクマのぬいぐるみはどこ？」と言うと、彼はそれを探して周囲を見回した。さらに少し経ってから、私は「お前のバスはどこ？」と言ってみた。今度は、彼は何の動きも見せなかった。

スティーブンは ball (ボール) と teddy (クマのぬいぐるみ) という単語は知っ

ているように思われたが、bus（バス）はそうではなかった。もちろん彼は bus も知っていたかもしれないが、彼はそのおもちゃを探そうとするそぶりを全く見せなかった。もしかすると、彼はこのゲームに退屈し始めていたのかもしれない。あるいは、次のように考えていたのかもしれない、つまり「実験台になるのはもううんざりだ。僕は晩ご飯が食べたいのだ」と。しかし、彼はほかの2つの単語を理解しているという明確なサインを出していたのである。

子供の言葉を研究する人々は、多くの時間をかけて、赤ん坊が自分の周囲で聞こえる話にどのように反応するかを観察する。彼らは大人と赤ん坊がふれあっているところをビデオに録り、大人が言っていることを理解しているというサインを赤ん坊が出していないかどうかを観察するために、注意深くビデオを調べる。そうしたサインは、例えば赤ん坊の目や頭、それに手のかすかな動きといったように、時として非常に目立ちにくいものである。赤ん坊と一緒にただ座っているだけでは、決してそれらに気づくことはないだろうが、録画したものを何度も繰り返しじっくり見ることで、それらを見つけることができるのだ。

生後12か月になるまでに、スティーブンはどれくらいの単語を知っていただろうか？ 私には、彼は12個くらい知っているように感じられた。彼は間違いなく、ball, teddy, drink（飲み物）や、ほかのいくつかの物の名前だけでなく、mummy（ママ）やdaddy（パパ）も知っていた。彼はまた、いくつかの単語をそれらが関連する活動と結び付けることもできた。積み木の山を倒せば、だれかがdown（倒れた）と言うだろうということが彼にはわかっていた。器の中の食べ物を全部食べてしまうと、all gone（全部なくなった）という言葉を目にするであろうこともわかっていた。これらの単語のいくつかを、彼は生後6か月頃という非常に早い時期に理解しているように思われた。

1つの言語の中の単語は語彙と呼ばれる。スティーブンは英語の語彙を学び始めていた。ここで、彼はこの学習を2つの段階で行っていたことに注目していただきたい。第1段階は、周囲で使われているのを耳にする単語のいくつかを理解することであった。しかし、生後12か月の時点では、彼はそうした単語のどれをも自分で口にする方法をまだ学んではいなかった。人々が自分で能動的に単語を使う場合、彼らは能動語彙（または表現語彙）を持っていると我々は言う。単語の意味は理解できるが実際には使わない場合、その人たちは受動語彙（または理解語彙）を持っていると言う。生後12か月の時点で、スティーブンは12の受動語彙を持っていたが、能動語彙はゼロであった。

しかし、このような状況はまさに変わろうとしていたのだ。例のちょっとした実験から1週間くらい経って、彼は最初の言葉を発したのである。彼の両親は喜んだ。彼らはずっとかたずをのんで待っていたのだ。彼が最初に発する言葉は

mummy だろうか、daddy だろうか。

実際は、そのどちらでもなかった。彼が発した言葉は all gone だったのだ。

#### 英文要約例

The writer wanted to know whether babies understand what adults are saying, so he did a little experiment using his son Steven. He found that at around the age of one, Steven knew some words like “ball” and “teddy.” Steven seemed to be able to link some words, such as “all gone” with the activities they related to, as early as he was around six months old. The writer guessed that his son had a passive vocabulary of a dozen words but no active vocabulary at the age of one. However, a little later, Steven uttered his first word. To his parents’ disappointment, it was neither “mummy” nor “daddy,” but it was “all gone.” (114 words)

#### 関連語句・ことわざ

acquire：～を獲得する、(技術・知識など)を習得する

language acquisition：言語習得

mimic：～をまねる

utter：(言葉)を発する

utterance：(言葉)を発すること

bilingual：二言語を使用できる

trilingual：三言語を使用できる

multilingual：多言語を使用できる

language skill：語学力

facial expression：顔の表情

gesture：ジェスチャー

verbal communication：言語コミュニケーション

nonverbal communication：言語によらないコミュニケーション

A little language goes a long way.：ちょっとした言葉がとても役に立つ。